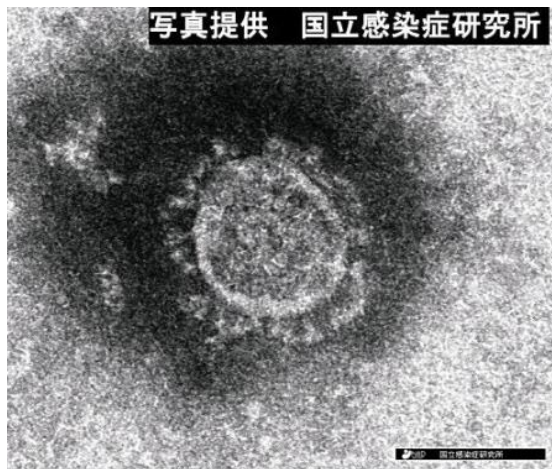


新型コロナウイルス、中国・武漢の研究所から流出可能性「80～95%」…ドイツ対外情報機関が極秘報告書

3/13 読売新聞



写真提供 国立感染症研究所

【ベルリン＝工藤彩香】ドイツの有力紙ツァイトと南ドイツ新聞は12日、ドイツの対外情報機関が2020年、新型コロナウイルスが中国・武漢のウイルス研究所から流出した可能性が高いとの極秘報告書をまとめ、独首相府に提出していたと報じた。

両紙の報道によると、独連邦情報局（BND）は、19、20年に執筆された新型コロナウイルスに関する未発表論文や動物実験のデータを入手して分析。報告書では、武漢のウイルス研究所が、

研究目的で、人間に感染しやすいようウイルスを改変する実験を行っていたと指摘した。ウイルスの扱いはずさんで、多くの安全規則違反があったとし、BNDは、ウイルスが研究所から外部に流出した可能性が「80～95%」で非常に高いと結論付けた。

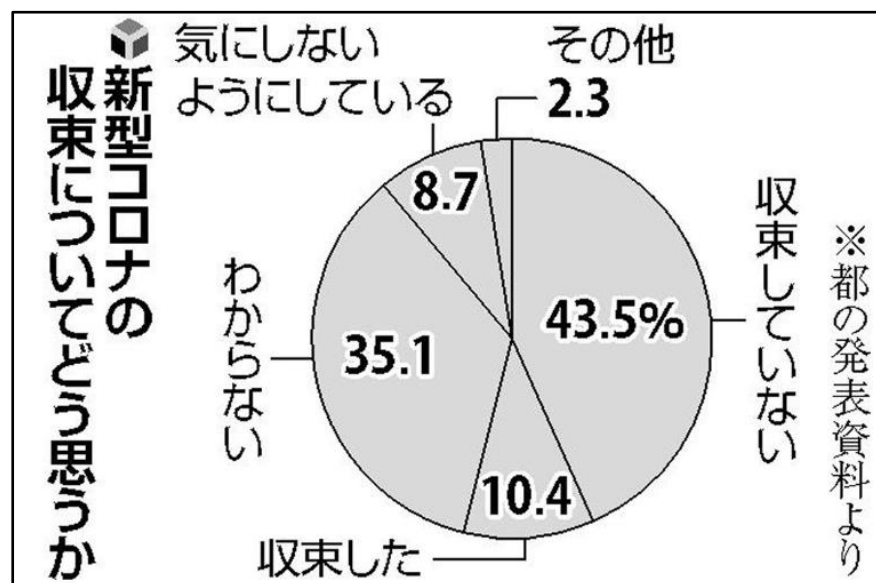
ウイルスの発生源を巡っては、研究所から流出した説と、動物を介して人間に感染したとする説とで論争が続き、米政府が23年6月に公表した報告書でも原因の特定には至らなかった。報告書は昨年秋に米中央情報局（CIA）にも共有されたといい、今後、論争に影響を与える可能性もある。

「コロナまだ収束していない」都民の4割超、理由は「通常の薬で治せない」最多…「感染再拡大に不安」68%

2024/03/26 読売新聞

東京都は、都民約1万人を対象にした新型コロナウイルスに関するアンケート調査の結果を公表した。コロナについて「収束した」と回答した人は1割だったのに対し、「収束していない」と答えた人が4割を超えた。

アンケートは2月9～19日、都内在住の20～70歳代の男女計1万531人にインターネットで実施した。



コロナについて、「収束した」と答えたのは10.4%で、「収束していない」との回答は43.5%だった。35.1%が「わからない」と答え、「気にしないようにしている」も8.7%いた。

収束していないと回答した人に理由を複数回答で尋ねたところ、「(抗生剤など)通常の薬で治せない」(50.3%)が最多で、「自分

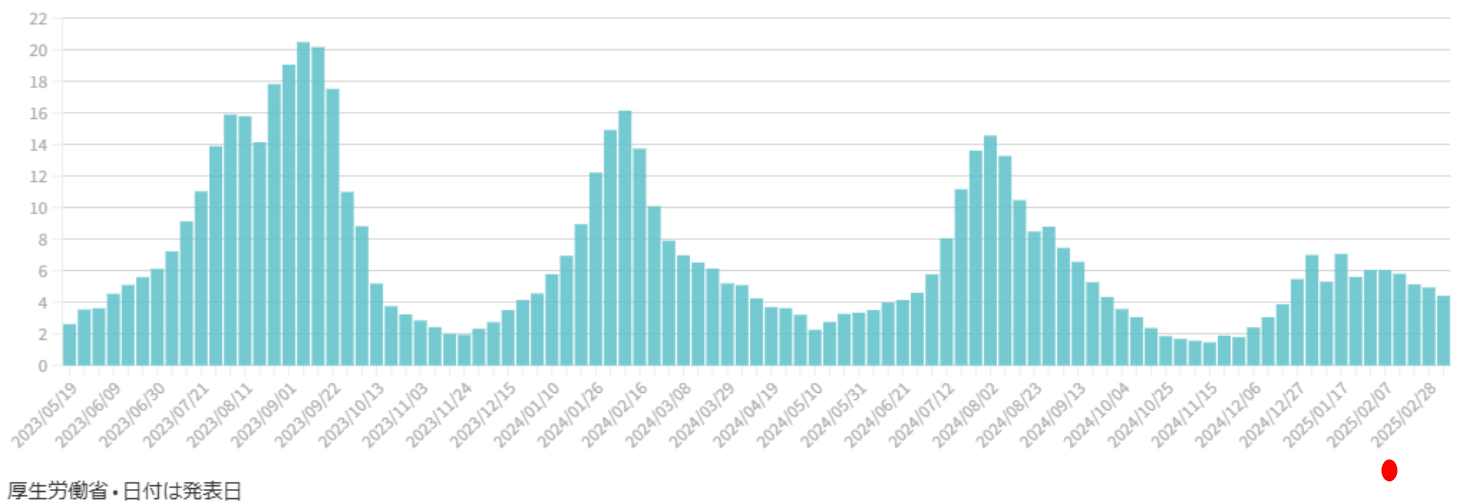
の周りで感染している人がいる」(39・7%)、「世界では感染者数が増加傾向にある」(32・0%)と続いた。

また、「感染の再拡大への不安がある」とした人は68・7%に上った。感染対策のマスク着用について、「いつも気をつけている」「まあ気をつけている」の合計も72・1%に達した。

コロナの医療提供体制は4月から通常へと移行するが、アンケートをとりまとめた放送大の奈良由美子教授は「発生から4年が経過しても、感染リスクに対する都民の意識に大きな変化はない」と分析している。

新型コロナウイルスの定点報告の全国平均

全国約5000の医療機関での1週間分の感染者数



●2025. 2, 28

「パンデミック条約」の策定協議、米が離脱通告…WHO「考え直すことを願う」

2025/02/18 読売新聞



WHOのテドロス事務局長

【ジュネーブ＝船越翔】世界保健機関（WHO）は17日、世界的な感染症の流行に備えて策定中の「パンデミック条約」について、米国のトランプ政権から策定に向けた協議を離脱するとの通告があったと明らかにした。WHOは今年5月の総会までの策定を目指しており、米国に再考を求めている。

パンデミック条約は、新型コロナウイルスの感染拡大の教訓を踏まえ、病原体の情報共有やワクチン供給など感染症対策の国際ルールを定めるもので、2022年からWHOの加盟国の

間で協議が続いてきた。

WHOのテドロス・アダノム事務局長は17日の会合で、米国から14日に通告があったと説明し、「遺憾であり、米国が考え直すことを願っている」と強調した。その上で、パンデミック条約は「多くの点で合意に達し、ゴールが見えている」と述べ、改めて策定を急ぐ考えを示した。